

<p>1</p>	<p>異社会・異文化・異言語に接する中で、印象的な出来事を3つ思い出して「2」の欄に書いてください。その体験に「見出し」をつけるとしたら、下の一欄の国際理解教育の目標項目のどれに当てはまりますか。「2」の番号欄に書いてください。「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの観点から、必ず入るように選んでください。つまり、最低3つの欄は埋めてください。下の一覧にない場合は、自分が考える目標項目を「その他」の欄に書いて、その番号を書いてください。</p> <p>◆「知識」 ① 国際友好・平和 ② 文化的多様性と共通性 ③ 相互依存 ④ 正義・公共性 ⑤ 共生 ⑥ 持続可能性 ⑦ 民主主義</p> <p>◆「思考力・判断力・表現力」 ⑧ 偏見・差別・ステレオタイプを見抜く力（批判的思考力） ⑨ コミュニケーション力 ⑩ 課題解決能力 ⑪ 想像力</p> <p>◆「学びに向かう力・人間性」 ⑫ 人権意識 ⑬ 寛容・共感・エポケー ⑭ 協力・協調性 ⑮ 誇り・自尊心 ⑯ 行動・参画 ⑰ グローバルな意識</p> <p>◆その他（⑱ _____ ⑲ _____）</p>
<p>2</p>	<p>それはどのような体験から、どのように考えたのですか。</p> <p>番号 [文化的多様性と共通性] ② ・中国の成都で世界遺産 黄龍に向かう際、ガイドの方とそのご家族と話をし文化の多様性と共通性を感じた。理由として、ガイドの方はアバ・チベット族の方で、黄龍に住んでいる方達の大半がこの民族である。しかし、ガイドさんのお子さんは平日、その場所から更に100km以上も離れた成都の公立小学校に通っている。学校教育が統一され、ニュースであるようにチベット族の方達が迫害や人権と言われているが、実際には進んで中国共通の標準語の学習を進めている家庭もあることを知った。と、同時に成都にはチベット族やウイグル族、回族など漢民族以外の人も一緒に生活をしていることを知り、民族による文化の多様性を互いに理解しつつ、標準語の学習に向けて取り組む家庭もあることを知った。</p> <p>番号 [持続可能性] ⑥ ・中国での生活で、とにかく一般的に驚いたのはマイボトル・マイバックなど自らの物を必ず持参することが多いことに驚いた。また、産業も発展し車文化も日本と同様だか、バイクのほとんどは電気バイクで、ガソリンバイクは法律で禁止されていることを知った。そのため、車も2030年までに全て電気自動者にする取り組みも行っている。13億人の人口だからこそ、小さな取り込みを継続して行っているようにも思える。また、食品ロスに対しても日本よりも意識し、食べきれないものは持ち帰りができたり、食品の持ち込みも事前に確認したりすることで費用もかからず行うことができる。</p> <p>番号 [課題解決能力] ⑩ ・問題や課題に関して全員でまず提案した案を実施してみよう！と言う姿勢が非常に勉強になった。例えば、何か学校で事業を実施するときも大きな枠決めだけ決めて、その後出てくる問題点についてもおおよそしか決めてない状態でもとりあえず実施してみる精神は日本人にはないものと考えた。この姿勢は非常に勉強になり、考えてばかりで腰が重いよりもまずか実施してみることで更なる問題点の発見や改善点の見直しができることがわかった。</p> <p>番号 [グローバルな意識] ⑱ ・自分がその国の言語を話せなくてもとりあえず話しかけてみるっという気持ちが、接した人たちから伝わる。13億人の人口の他に、自国以外とのコミュニケーションが会社や学校以外でもあるためだと考えた。例えば、いつもいくご飯屋さんでのコミュニケーションや公園で遊ぶ子ども同士の関わりなどからみても、世界とつながろうという気持ちが臆さずにできていると感じられた。</p>

3	<p>教師として、指導観・教育観は変わりましたか。もし、変わったとしたならば、帰国後どのように生かしていこうと思いますか。</p> <p>・指導観や教育観は大きく変わった。それまで、何となく感じていたグローバルな意識な感覚という物が、実際にふれ合ったことで自分のコミュニケーション力はまだまだであると観じた。と、同時に自分の国にもっと自信をもつことの大切さも感じた。さらに、今の日本教育のあり方が時代と沿うのか疑問を抱くようになった。例えば、校則の一部の髪型の指定や靴下指定。受験に必要ということで統一しているが、本当にそのことが教育的に、意味があるのか疑問をいやく。</p> <p>また、日本に住む外国籍の子どもや保護者のフォローの少なさを感じた。</p>
4	<p>自分の体験を、国際理解教育の目標として一般化することができましたか。では、指導のための自分なりの国際理解教育の全体構想図を簡単に考えてみよう。</p> <p>大目標 日本である誇りを育て、日本に住む外国籍者をフォローする</p> <p>それを実現するための3つの小目標 (重点化する必要があります！)</p> <p>① <u>外国語(中国語) 教員免許の取得する</u></p> <p>② <u>外国籍者の生活フォローやボランティアに参加する</u></p> <p>③ <u>学校教育の国際理解を総合などに取り入れ、ふれ合う機会をもつようにする。</u></p>
5	<p>※具体的な指導方針 (こんなことをやってみたい！) (今こんなことをやっている！)</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">言葉や文化の壁のない心 の 育成</p> </div> <p>◎日本人や外国籍の子どもやその保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に多様な言語に触れさせることで、より広くグローバルな意識を見いださせる。 ・海外に対する恐怖心を小さくして、どの国でもどの人種、文化とも接することができる態度の育成 (やってみたいこと) <p>◎学校教育における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生や地域に住む外国籍者に協力をしてもらい、国際交流を総合的な学習で取り入れる。 (やってみたいこと) <p>◎自身の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本在住している外国籍の方のボランティアや生活サポート的な活動 (やってみたいこと) ・外国語免許(中国語)を取得し、学習の場に還元すること。(現在進行中) ・目の前の生徒達の特別な教科道徳や専門教科から国の違いについて授業を行う。